

令和5年度 海田東小学校 学校評価自己評価表

学校教育目標 考え実践する 海田東っ子 笑顔・あいさつ・思いやり（EAO）
 —「よく学び」「よく遊び」「やさしく強く」—

中期経営目標	短期経営目標	取組・評価項目	評価指標	評価基準				中間値	評価	1学期の反省	2学期の取組
				A	B	C	D				
				目標達成	ほぼ達成	もう少し	できていない				
知	自分の考えを身に付けた児童の育成	・「海田町標準学力調査」(GRTの結果)	・「海田町標準学力調査」全国平均正答率との比較(全国平均正答率以上の教科の割合)。	75%以上	65%以上	60%以上	60%未満		A	標準学力調査は、未実施のため、中間値、評価は最終報告の時に検証し記入する。	
	・授業で深く思考する児童の育成	・知識を活用し、協力して新たな価値を生み出す授業の実施	・児童アンケートにおける、「友達と協力して学び合っている。」「自分の意見を持ち、友達の見解と比べたり、合わせてたりして、答えや考えをまとめている。」の児童の割合。	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満	【学び合っている】 肯定 88% 否定 12% 【考えをまとめている】 肯定 80% 否定 20%		・生徒指導の三機能を意識して授業を行うことができた。今後も継続していく。 ・創造的、創作的な活動時に、自分の考えをもって、理由も明確にしながらグループ活動に臨むことができた。 ・縦割り班活動を中心に、異学年交流を通して、他者理解を深めることができた。今後も異学年交流を充実させる。	・低・中学年の内に、自分の考えをもつことを大切に。その際、自分の考えをもつことが難しい児童に対する支援も行う。 ・低学年の児童が他者の意見を取り入れたり、学び合ったりする難しさはあるが、発達段階に応じ、粘り強く指導する。 ・自分の意見も大切にしながら、他者の意見と比べて「違うこと」も肯定的に捉えられるような雰囲気づくりを大切に。 ・道徳科を中心に、自分の意見、考えとは違っていたが、納得できることなどを確認し、異なる意見を受容する意識を高める。
徳	自分の考えをより高める	・行事等における「よいとこ見つけ」の取組 ・児童の自己肯定感を高める	・児童アンケートにおける、「自分には良いところがある」と考えている児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	肯定 82% 否定 18%	A	・各行事における「よいとこ見つけ」の取組が、職員室前に掲示されている。特に運動会では、他学年から6年生に向けて、応援団に向けて、係に向けて、感謝の気持ちを述べており、確実に全校児童の意欲や自己肯定感を高めている。 ・生徒指導重点目標において、児童会・委員会活動の活性化と生徒指導三機能を生かした授業づくりを推進しており、各教職員が授業中、生徒指導三機能を生かしたきめ細やかな指導を心がけている。	・2学期も、引き続き、各行事における「よいとこ見つけ」の取組をしていく。また、夏学生徒指導校内研修において、生徒指導三機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かしたきめ細やかな指導についての研修を行い、授業中の自己決定の場を与える、自己存在感を高める、共感的人間関係を育む具体的な取組を話し合った。それぞれの教員で2学期の授業に生かしていく。
	・時と場に応じた挨拶ができる児童の育成	・あいさつ運動の実施	・児童および教職員アンケートにおける、「あいさつや会釈をしている」児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	【児童】 肯定 88% 否定 12% 【教職員】 肯定 83% 否定 17% 【地域】 肯定 50% 【保護者】 肯定 71%	B	・朝の挨拶運動では、4月当初よりも確実に、笑顔で挨拶をする児童が増えた。校内においても、声をかけると笑顔で挨拶をする児童がほとんどである。全校児童が落ち着いて生活している様子がうかがえる。しかし、コロナの影響で地域との関わりが薄れたことにより、保護者やボランティアさんへの挨拶が少なくなっている。	・自ら進んで挨拶を行うために、「あいさつの花を咲かせよう運動」の取組を行う。あいさつの花カードの花びらに書かれている対象者(教職員、地域ボランティア、旗番さん等)への挨拶を行い、花カードを塗っていく。「あいさつの花を咲かせよう運動」が終わったら、全校の花をまわし、1階廊下に掲示を行うことにより、誰に対しても自然と挨拶をするような雰囲気づくっていく。
	・場を美しく整えようとする児童の育成	・黙動流汗清掃の指導の取組	・児童および教職員アンケートにおける、「黙動流汗清掃をしている」児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	【児童】 肯定 88% 否定 12% 【教職員】 肯定 88% 否定 12%	A	・縦割り班による黙動流汗清掃の取組により、6年生が中心になって、低学年等に掃除の仕方を教え、自ら掃除の機転を示していくよう取り組んでいく姿が見受けられる。しかし、縦割り班によって、取組の温度差が見えることが課題である。	・東小文化である縦割り班の取組は、様々な場面で効果を得ている。低学年等の児童が、高学年から学ぶことにより、高学年に対する信頼感や憧れにつながり、自らの成長に役立っている。また、高学年も自己肯定感が高まり、責任を果たしている。班によって取組の差があるので、週一回の振り返りを充実させ、班ごとの温度差をなくしていく。
体	進んで健康・安全を考える子	・基本的な生活習慣の定着に取り組み、元気に過ごそうとする児童の育成	・生活リズムカレンダーでの「早寝ができた」の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	76.2%	B	・生活リズムカレンダーが定着していて、取り組みの期間は生活リズムを意識して生活する児童が増えたと考えられる。一方、家庭の協力が必要な取組のため、差が出てしまう。学校から定期的に効果のある情報を発信しつつ、取り組みのマナー化をしながら指導する必要がある。	・養護教諭による事前指導や担任による声掛けを充実させ、より児童が自ら取り組めるように実践を進めていく。その際に、学年団の教員や学級において目標を設定し、取り組みへの意欲を高めていく。
		・外遊びの指導の取組	・児童および教職員アンケートにおける、「1日に1回は外に遊びに出ている」児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	【児童】 肯定 69% 否定 31% 【教職員】 肯定 68% 否定 32%	C	・ログ昼休憩など遊びを促進する取り組みが行っていない。また、遊ぶスペースの確保や遊びを創作する知識(力)が乏しいなどの課題もある。 ・1学期の後半は暑さや熱中症対策のため外に出る時間が少なかったと考えられる。	・暑さや台風による悪天候も考えられる。ミストの設置や体育館の解放など、遊び時間の確保や対策を講じて、児童が安心・安全に遊ぶ時間と場所の確保を行っている。 ・体育委員会を中心に外遊びのメリットや遊びの紹介を積極的に行い外遊びの奨励を図る。
		・人や自分の命を大切に、安全に生活しようとする児童の育成	・避難訓練・防犯教室・SNS教育の取組	・児童および教職員アンケートにおける、「自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている」児童の割合。	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	【児童】 肯定 95% 否定 5% 【教職員】 肯定 88% 否定 12%	A	・訓練の種類に応じて、工夫した実践ができた。不審者避難訓練に関しては、児童には理論的な訓練を実施し、教職員には外部講師を召集しての実践的訓練などを行うことができた。 ・作業的な訓練にならないように、教職員で大事にすべきところをしっかりと共有して、訓練に臨む必要がある。
信	信頼される学校を目指す	・迅速・誠実・丁寧な対応、意図的、計画的な家庭訪問の実施	・保護者アンケートにおける、「学校の取組を信頼できる」と考えている保護者の割合。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	【保護者】 肯定 95% 否定 5% 【地域】 肯定 92% 否定 8%	A	・児童のトラブルや個別対応が必要な事案について、情報共有がしっかりとされていることから、迅速で丁寧な対応ができていたと考えられる。 ・学校よりや学級連絡により本校の教育活動を保護者や地域へ発信することで理解を得ることができていると考えられる。 ・保護者、地域からの意見や授業づくりのアイデアなどを積極的に受け取り、各分掌で検討し改善を図っていく。	・2学期以降情報共有のシステム化を図っていく。児童への丁寧な対応を徹底していく。 ・保護者、地域への情報発信を学校だけでなくホームページ、より本校の教育活動への理解が深まるよう工夫していく。 ・保護者、地域からの意見を今後の教育活動に生かしていくように、各分掌で検討し改善を図っていく。
		・「児童と向き合う時間」を確保	・教職員アンケートで「児童と向き合う時間の確保ができていない」の割合。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	肯定 68% 否定 32%	C	・コロナ感染症が5月に移行され、学校行事の実施の仕方や日々の教育活動の変化があり、その対応について時間を割けることが多くあった。 ・若い教員が増える中で、より丁寧な情報共有が必要となった。 ・保護者を教員が抱える中で、4月の体制は変えるべきでない状況で、他の教員への負担が増えた。 ・業務改善の視点で、業務の精選が必要となっている。 以上4点のことから、自ら、児童と向き合う時間を十分に取れないと感じている教職員が2%増えたと考えられる。	・各分掌部長を中心に、学校運営の円滑化を進めることや教育活動を教育的価値の大きさを具現化するために必要とを精選し、実施していく。 ・若い教職員へ教材の共有や授業づくりのアドバイスなどができる時間を確保することで、一人の負担を軽減していく。 ・業務改善の視点で業務を見直し、精選をしていく。 ・海田町教育委員会へ教職員の増員を希望していく。